

<第37回東京国際映画祭 開催概要>

■開催期間：2024年10月28日（月）～11月6日（水）

■会場：日比谷・有楽町・丸の内・銀座地区 ■公式サイト：www.tiff-jp.net

<TIFFCOM2024 開催概要>

■開催期間：2024年10月30日（水）～11月1日（金）

■公式サイト：www.tiffcom.jp

◆第37回東京国際映画祭：ナビゲーター菊地凜子に決定！！

今年のポスターは映画らしさを出すために、映画館で映画女優を撮り下ろすというコンセプトのもと作成をしました。そして、撮りおろさせてもらったのが、今年の映画祭のナビゲーターに就任して頂くことが決定しました菊地凜子さんとなります。菊地凜子さんは2006年『BABEL』にてアカデミー助演女優賞にノミネートされ一躍脚光を浴び、以降『ノルウェイの森』（10、トラン・アン・ユン監督）、『パシフィック・リム』（13、ギエルモ・デル・トロ監督）、『Endless Night』（15、イザベル・コイシェ監督）など海外監督の作品にも多数出演し、昨年『658Km、陽子の旅』では上海国際映画祭にて最優秀女優賞を受賞しました。映画のフィールドで活躍をされてきた、まさに映画女優と呼ぶにふさわしい存在で、今年の映画祭のナビゲーターとして立って頂くこととなりました。

ポスターのビジュアル監修は昨年同様コシノジュンコさんとなり、東京近郊の映画館で明日 9/6（金）から掲出予定です。

菊地凜子さんの強いまなざしの先に、また新たな映画の景色を本映画祭で見せられればと思っております。

菊地凜子コメント：映画と映画を愛する人達との出会いが、東京という舞台でしっかりと繋がっていただけたらと思っております。この唯一無二の都市で行われる国際映画祭を、微力ながら盛り上げていきたいと思っております。

なお、10月28日（月）のオープニングセレモニーに関しては、昨年同様東京宝塚劇場で行うほか、クロージングセレモニーはTOHO シネマズ日比谷（スクリーン12）、会期中の上映劇場は丸の内TOEI、丸の内ピカデリー、TOHO シネマズ 日比谷、有楽町よみうりホールの大規模劇場に加え、この他に角川シネマ有楽町、シネスイッチ銀座、ヒューマントラストシネマ有楽町、TOHO シネマズ シャンテとなります。三井不動産、三菱地所といった日比谷・丸の内地区の有力企業ともより連携を深め、東京都、千代田区、中央区などの行政、全銀座会等の地元団体とも様々な協力体制を敷き、街ぐるみの映画祭となっていく予定です。また、各協賛企業の皆様にもご協力頂き、世界から映画・テレビ・アニメーションの業界関係者が一堂に会する映画祭併設ビジネス・コンテンツマーケットTIFFCOMとも連携しつつ、さらなるパワーアップも図ります。今年の東京国際映画祭にどうぞご期待下さい。

■菊地凜子プロフィール

1981年、神奈川県出身。映画『生きたい』（99）にてスクリーンデビュー。『バベル』（06）にてアカデミー助演女優賞を含む多



TIFFCOM ポスター

数の映画賞にノミネートされる。映画『パシフィック・リム』シリーズ、『47RONIN』（13）など海外作品に主要キャストとして多数

出演。近作は、米国ドラマシリーズ「TOKYO VICE」、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」、ドラマ「PICU」（CX）、主演映画『658km、陽子の旅』（22）では第25回上海国際映画祭最優秀女優賞を受賞。「侵入者たちの晩餐」（日本テレビ）、「ブギウギ」（NHK）、「花咲舞が黙ってない」（日本テレビ）など。国内外で活動の幅を広げている。



ソニー：SMPTE ST 2110 の IP 伝送^{※1} やカメラコントロールユニット接続に対応し、柔軟なシステム構築が可能 2/3 型 3 板式 4K イメージセンサー搭載のマルチパーパスカメラ『HDC-P50A』発売



**NETWORKED
LIVE**

『HDC-P50A』 ※レンズは別売りとなります

ソニーは、グローバルシャッター機能を備えた 2/3 型 3 板式 4K イメージセンサーを搭載し、小型軽量で設置場所の自由度の高いマルチパーパスカメラ『HDC-P50A』と、その関連オプションライセンスを発売します。

本機は、マルチパーパスカメラ『HDC-P50』(既発売)の機能や性能を踏襲し、カメラ本体から SDI による信号出力が可能となることに加え、放送業界での採用が進む SMPTE ST 2110 での IP 伝送^{※1}にカメラ単体で新たに対応し、ライブ制作にも活用できます。さらに、カメラコントロールユニットとの接続が可能のため、カメラの設置場所とコントロールルームが離れた撮影環境でも柔軟に運用することができます。また、可変 ND フィルターユニット『HKC-VND50』(既発売)の追加搭載にも対応しています。小型軽量の筐体を活かして、人が入りづらい場所での撮影や、ヘリコプターでの空撮、クレーンやワイヤークラムでの撮影など、多様なシーンで活用できます。

なお、『HDC-P50A』は、マルチフォーマットポータブルカメラ『HDC-5000 シリーズ』、『HDC-3500 シリーズ』(いずれも既発売)と同じ 2/3 型 3 板式 4K イメージセンサーやプリズムを搭載することで、両カメラシリーズと同じ色再現が可能のため、既存のシステムへも容易に組み込むことができます。

映像制作業界においては、スポーツ、ライブといったイベントでの高品位な映像制作の需要が増加しているとともに、自動撮影などによる省人化や、IP 対応によるライブ制作へのニーズも高まっています。ソニーは、本機の発売により、ますます多様化する映像制作業界のニーズに応えます。

※1 オプションライセンス『HZC-SFP5A』が必要です。

商品名	型名	発売日	希望小売価格
マルチパーパスカメラ『HDC-P50A』	『HDC-P50A』	2024 年 12 月	4,180,000 円 (税込) (税別 3,800,000 円)
IP インターフェースソフトウェア『HZC-SFP5A』	『HZC-SFP5A』		880,000 円 (税込) (税別 800,000 円)

『HDC-P50A』の主な特長

1. SMPTE ST 2110 での IP 伝送に対応

オプションライセンス『HZC-SFP5A』と組み合わせることで、『HDC-P50A』から直接、SMPTE ST 2110 での IP 出力が可能で、「AMWA NMOS (Networked Media Open Specifications)」^{※2}にカメラ単体で対応できます。ハードウェアを追加することなく直接



<背面>

IP での出力が可能で、IP Tally にも対応しているため、IP スタジオ内のコンパクトなカメラとして活用できるほか、IP カメラエクステンションアダプター『HDCE-TX50』や、カメラコントロールユニット『HDCU-5000』『HDCU-5500』に接続することで、IP での入出力と、ハイフレームレートでの出力も可能となります^{※3}。

IP 伝送に対応することで、ライブ制作ソリューション「Networked Live (ネットワークド ライブ)」で提供する商品とも連携できます。カメラコントロールネットワークアダプター『CNA-2』と接続し、カメラを遠隔から一元監視して運用を省人化するなどの活用が可能です。

※2 異なるベンダーの機器を IP で相互運用するための仕組み。

※3 『HDCE-TX50』との組み合わせではダイレクトモードソフトウェア『HZCE-DIR50』が、『HDCU-5000』『HDCU-5500』との組み合わせでは ST 2110 インターフェースキット『HKCU-SFP50』がそれぞれ必要です(すべて既発売)。

2. 柔軟な機能拡張性と小型軽量の筐体で、多様な撮影シーンでの活用が可能

本機は、カメラコントロールユニット『HDCU-5000』『HDCU-5500』や IP カメラエクステンションアダプター『HDCE-TX50』への接続に対応します。カメラコントロールユニットや IP エクステンションアダプターとは、シングルモードファイバーで最大 10km の長距離接続が可能のため、ゴルフ中継などの撮影場所と中継車システムが離れたいる撮影現場においても活用することができます。また、カメラコントロールユニットとの接続時は、4K で最大 4 倍速・HD で最大 8 倍速のスローモーション撮影が可能です^{※4}。

小型軽量の筐体は設置の自由度が高く、人が入りづらい場所や高所での撮影にも適しています。リモート雲台に搭載してのシンプルな撮影や、スポーツやライブイベントなどでの多様なアングルからの撮影など、さまざまなシーンで活用できます。

※4 HD8 倍速撮影時には、HFR ソフトウェア『HZC-HFR50』と、『HDCU-5000』または『HDCU-5500』への接続が必要です。4K4 倍速撮影時には、『HZC-HFR50』と 4K HDR 対応ソフトウェア『HZC-UHD50』、4K4 倍速プロセッサボード『HKCU-UHF50』を実装した『HDCU-5000』への接続が必要です(すべて既発売)。



3. 『HDC-5000 シリーズ』『HDC-3500 シリーズ』との高い連携性

マルチフォーマットポータブルカメラ『HDC-5000 シリーズ』、『HDC-3500 シリーズ』と同じ 2/3 型 3 板式 4K イメージセンサーやプリズムを搭載し、両機種で採用されている「BT.2020」「S-Gamut3」などの広い色域をカバーします。既存のカメラシステムへの追加の際も、容易に色合わせが可能です。

◆株式会社朋栄が製造部門、SI・サポート部門のグループ会社2社を統合（株）朋栄ティ・エム・エス、（株）朋栄システムサービスカンパニーを吸収合併し、経営効率化

株式会社朋栄（代表取締役社長：清原克明、本社：東京都渋谷区）は、朋栄100%出資の子会社である株式会社朋栄ティ・エム・エス（代表取締役社長：外崎圭吾、千葉県佐倉市）と株式会社朋栄システムサービスカンパニー（代表取締役社長：柴山隆洋、東京都渋谷区）のグループ会社2社を、2024年10月1日付けで株式会社朋栄に吸収合併して統合すると発表しました。

今回の統合は、製造部門を担っている株式会社朋栄ティ・エム・エスおよびシステム設計・施工・修理・保守を担っている株式会社朋栄システムサービスカンパニーを朋栄に統合することにより、研究・開発から製造・販売、システムインテグレーション、保守サービスに至るまでをワンストップで行える一貫体制に移行するとともに、経営資源の統合による効率化を図るものです。

朋栄代表取締役社長の清原克明は、今回の統合について、次のように話しています。

「朋栄は、その時代の最先端技術を活かしながら、お客様のニーズに応えるさまざまな製品を提供してまいりました。映像利活用の幅が拡がり、昨今の制作環境は、制作現場に置かれるオンプレミスな機材だけでなく、クラウド環境やデータセンターを活用するフォグ環境との密接な連携も進んでおります。お客様の制作環境がハードウェア/ソフトウェア、ベースバンド/Media over IPを柔軟に組み合わせるワークフローへと変化するなか、そのワークフローを構成する製品/ソリューションの開発・製造、保守・サポートを、よりスピーディーに円滑に行えるようにするために会社を統合することにいたしました。」

なお、これまで朋栄ティ・エム・エスが提供してきたEMS受託サービス、株式会社朋栄システムサービスカンパニーが提供してきた映像機器全般のシステム設計・施工および保守・サポートについては、株式会社朋栄が担い、今後も引き続き提供してまいります。

朋栄は、お客様、パートナーの皆様からのご期待にこれまで以上に応えられるよう、これからも一丸となって事業を推進してまいります。

問い合わせ先：株式会社朋栄 マーケティング本部広報部
TEL：03-3446-3121 e-mail：ad@for-a.co.jp

◆株式会社朋栄：MXFクリップサーバー MBP-210VS を出荷

ハードウェアコーデックを搭載し、HD-SDI信号とXDCAM互換MXFファイルの相互変換が可能

株式会社朋栄（代表取締役社長：清原克明、本社：東京都渋谷区）は、MXFクリップサーバー MBP-210VS を7月から出荷いたしました。



型名：MBP-210VS

発売時期：発売中（2024年7月～）

希望小売価格：300万円（税別）

MBP-210VS は、HD-SDI信号とソニーXDCAM互換のMXFファイルとの相互変換が可能なクリップサーバー。1RUの筐体にリダンダント電源とハードウェアコーデックを内蔵しており、安定した運用が可能です。コーデックは、XDCAM[※] HD 25Mbps (CBR)、35Mbps (VBR)、XDCAM HD422 50 Mbps (CBR) のエンコード/デコードに対応しています。

MBP-210VS は、標準のポン出しソフトウェア MCS-MBPPON を使用することで収録 1ch+再生 2ch のクリップサーバーとして使用できるほか、専用ツールを使用して収録 2ch、再生 4ch のクリップサーバーとして切り替えて使用することが可能です。

外部XDCAMドライブを接続することにより、1系統のダイレクト再生にも対応します。

システム領域とデータ記録可能領域にはそれぞれSSDを採用。データ記録可能領域は、2台の800GB SSDをRAID0で構成し、XDCAM HD422 50Mbps コーデック時に約55時間の映像収録が可能です。エンベデッドオーディオやアンシラリータイムコードにも対応しています。

※XDCAMは、ソニー株式会社の商標です。

製品に関する問い合わせ先：株式会社朋栄 国内営業本部
TEL：03-3446-3121 FAX：03-3446-4451
e-mail：ad@for-a.co.jp